

## 川西市のごみ処理の現状（概略）

1. 分別区分
2. 処理の流れ
3. 総排出量の推移
4. 排出量原単位の比較
5. 項目別排出量
6. 資源物排出量
7. 焼却処理量
8. リサイクル量
9. 最終処分量

## 1.分別区分

川西市では、平成 28 年 5 月より大型ごみの回収が有料の予約制となりました。  
また、令和 4 年 4 月からは、ごみ収集方法や収集回数を見直し、「燃やさないごみ・有害ごみ」  
「ビン」「カン」の回収を月 1 回に変更しました。

### 分別区分の変更

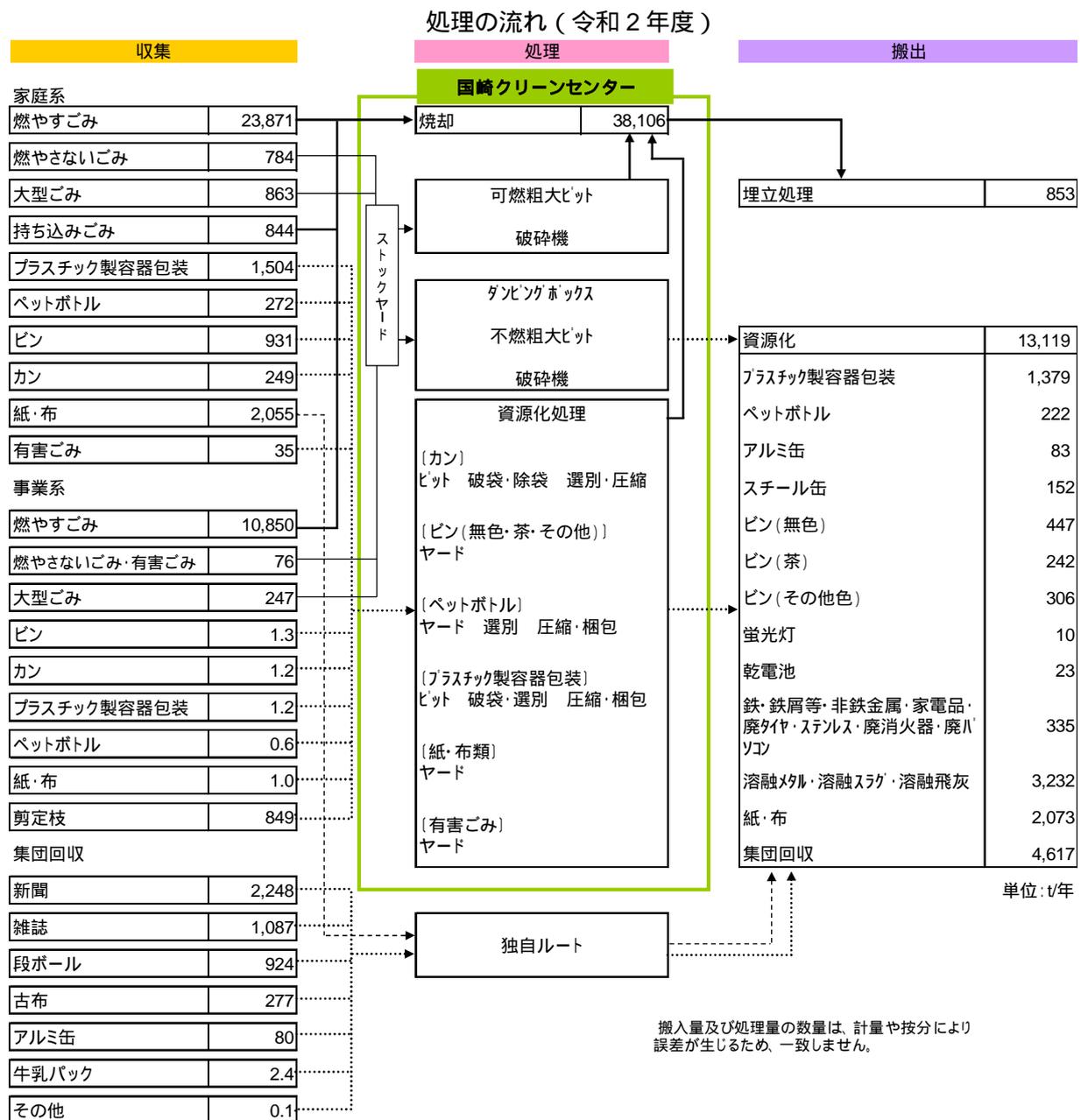
項目	回収頻度
燃やすごみ	週2回
プラスチック製容器包装	週1回
ペットボトル	週1回
燃やさないごみ	月2回
大型ごみ	月2回
有害ごみ	月2回
ビン（無色・茶色・その他）	月2回
カン	月2回
紙・布	月2回



項目	回収頻度
燃やすごみ	週2回
プラスチック製容器包装	週1回
ペットボトル	週1回
燃やさないごみ	月1回
大型ごみ	有料・予約制
有害ごみ	月1回
ビン（無色・茶色・その他）	月1回
カン	月1回
紙・布	月2回

## 2.処理の流れ

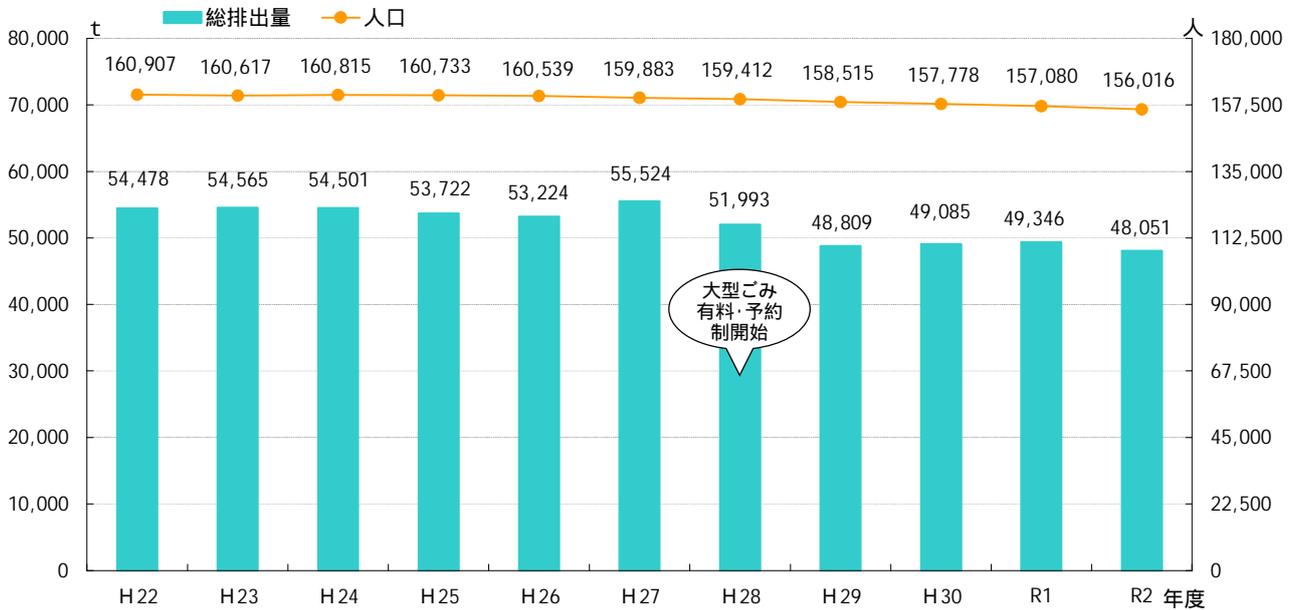
川西市の処理の流れは以下のとおりです。



### 3.総排出量の推移

近年、川西市の人口は緩やかに減少しています。

総ごみ排出量は、54,000 t 前後で推移していましたが、大型ごみの有料・予約制を控えた平成 27 年度は駆け込み排出の影響により、やや増加がみられました。平成 28 年度以降はおよそ 48,000t ~ 49,000t で推移しています。

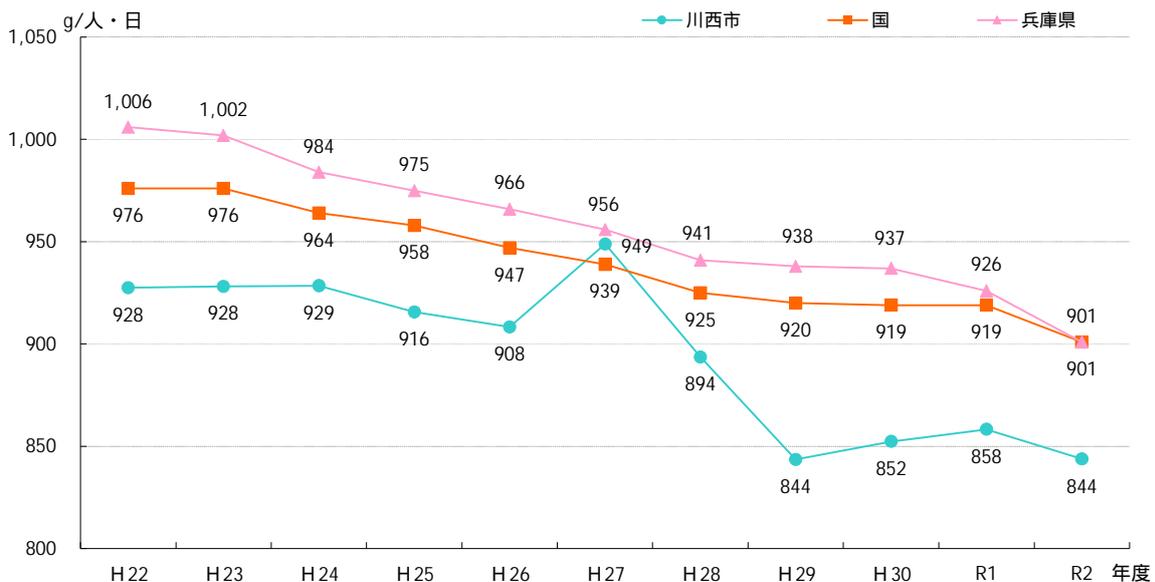


人口と総ごみ排出量の推移

### 4.排出量原単位の比較

川西市の排出量原単位（1人が1日あたりに出すごみ量）は令和2年度において844gとなり、平成27年度に一時的に増加したものの、10年前に比べると減少傾向にあります。

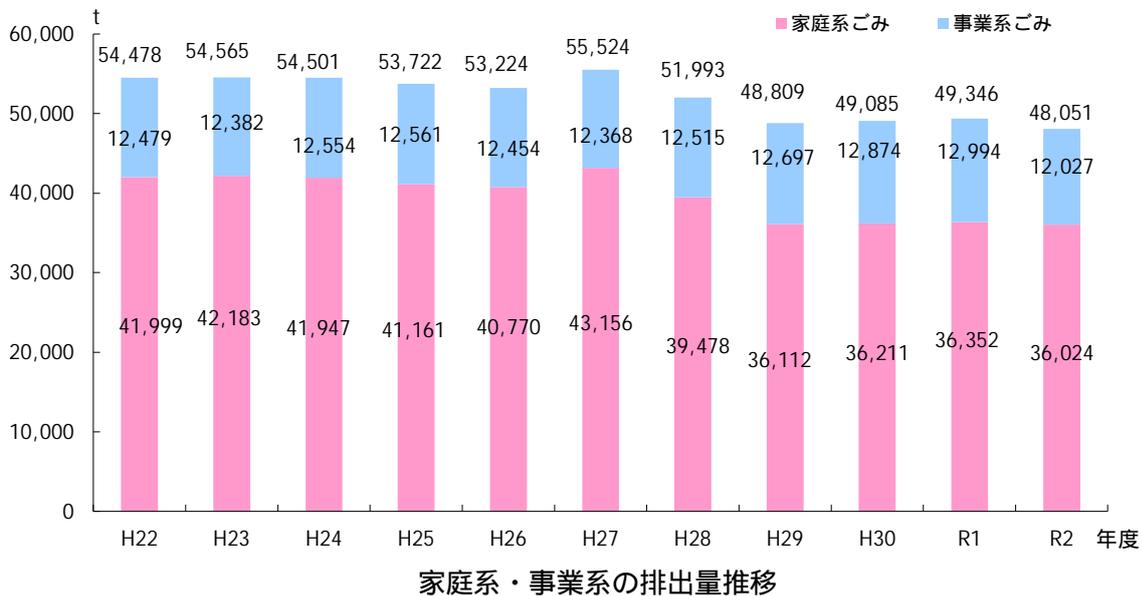
国、兵庫県においても減少傾向が続いていますが、本市はさらに低い値で推移しています。



排出量原単位の比較

## 5.項目別排出量

近年の川西市のごみ量は、家庭系ごみが約75%～77%、事業系ごみは約23%～25%で多少変化しながら推移しています。排出量としては、一時的な増減はあるものの、家庭系ごみ、事業系ごみともに減少しており、特に家庭系は平成22年度に比べ約14%減少しています。



近年の排出量の比率

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
家庭系	77.1	77.3	77.0	76.6	76.6	77.7	75.9	74.0	73.8	73.7	75.0
事業系	22.9	22.7	23.0	23.4	23.4	22.3	24.1	26.0	26.2	26.3	25.0

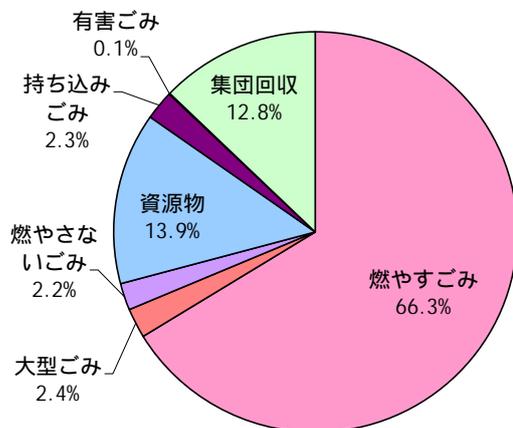
単位: %

### 家庭系ごみの内訳

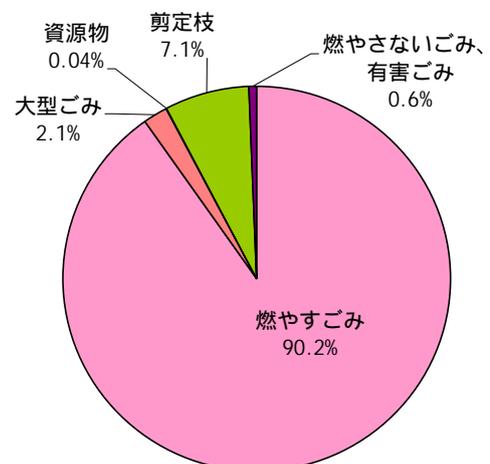
家庭系ごみの60%以上が燃やすごみとなっています。続いて紙・布、容器包装プラスチック類やビン、カンなどの資源物や集団回収が多く、これらは約25%を占めます。大型ごみや燃やさないごみなどはいずれも3%以下となっています。

### 事業系ごみの内訳

事業系ごみは減少傾向となっています。90%以上を燃やすごみが占め、次いで剪定枝、大型ごみ、燃やさないごみ、有害ごみとなっています。



家庭系ごみの内訳 (令和2年度)



事業系ごみの内訳 (令和2年度)

## 6.資源物排出量

資源物の回収量全体は平成 22 年度に比べると徐々に減少しています。ペットボトルは増加傾向にあるものの、その他の品目は減少しています。また、地域団体で実施されている集団回収においても、全体の回収量は減少傾向にあります。主に新聞、雑誌の減少が顕著になる一方で、段ボールは増加しています。

資源物（回収）量の推移

単位：t

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
ビン	1,149	1,138	1,113	1,117	1,094	1,081	1,031	996	949	910	933
缶類	316	292	290	273	264	255	239	217	222	227	250
プラスチック類	1,795	1,705	1,643	1,624	1,554	1,624	1,537	1,553	1,501	1,410	1,505
ペットボトル	190	175	181	173	160	150	174	216	242	269	273
古布・古紙	2,849	2,703	2,500	2,509	2,537	2,575	2,297	2,099	2,051	2,046	2,059
合計	6,300	6,013	5,727	5,697	5,609	5,684	5,278	5,082	4,965	4,861	5,019

集団回収の推移

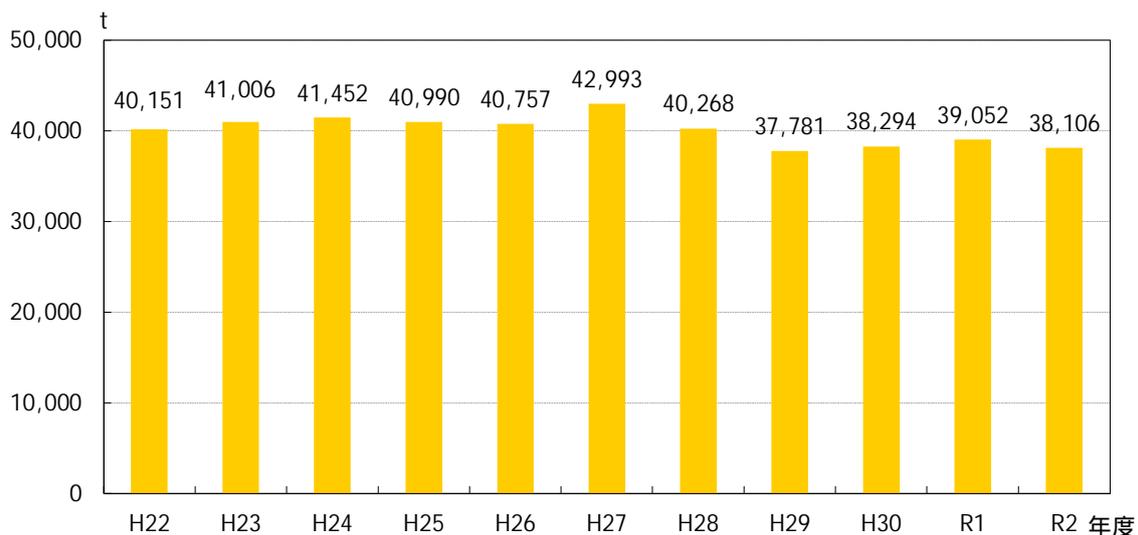
単位：t

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
新聞	4,729	4,576	4,394	4,170	4,014	3,758	3,418	3,164	2,991	2,706	2,248
雑誌	1,227	1,300	1,316	1,260	1,236	1,286	1,285	1,158	1,150	1,101	1,087
段ボール	906	883	901	920	947	991	999	974	948	867	924
古布	291	327	295	285	267	299	304	274	282	304	277
アルミ缶	85	84	81	87	84	90	85	96	87	84	80
牛乳パック	9.7	11.6	2.8	2.8	2.8	1.9	2.8	2.7	2.4	2.3	2.4
その他	0.2	0.1	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6	1.9	1.1	0.1	0.1
合計	7,248	7,181	6,990	6,725	6,551	6,427	6,095	5,671	5,461	5,064	4,617

## 7.焼却処理量

川西市の焼却ごみは、国崎クリーンセンター で処理しています。

平成 28 年度以前は、40,000 t を越えて推移していましたが、平成 29 年度以降は 37,000 t ~ 39,000 t で推移しています。



国崎クリーンセンターは、川西市、猪名川町、大阪府豊能町・能勢町の 1 市 3 町で設立された「猪名川上流広域ごみ処理施設組合」が運営する処理施設です。

出典：一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）

焼却処理量の推移

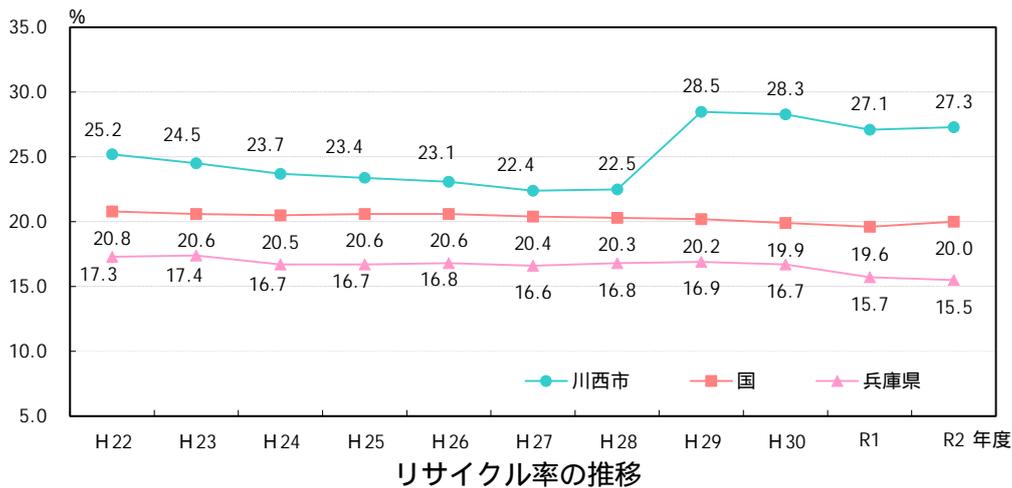
## 8.リサイクル量

近年のリサイクル量は平成 28 年度まで減少が続いたものの、溶融メタル・溶融スラグ・溶融飛灰の資源化を開始したことにより、平成 29 年度は大きく増加しました。その後は集団回収が減少し続けている影響などもあり、再び減少傾向にあります。

リサイクル率は平成 29 年度以降、約 28%前後で推移しており、国、兵庫県と比較すると、高いリサイクル率を維持しています。

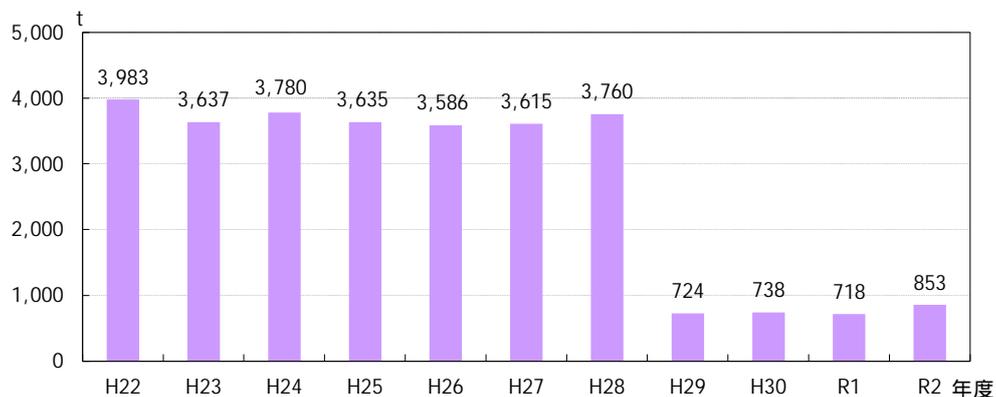
リサイクル量の推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
プラスチック製容器包装	1,650	1,574	1,502	1,489	1,451	1,488	1,444	1,447	1,407	1,313	1,379
ペットボトル	172	157	166	158	154	142	159	199	232	263	222
アルミ缶	70	66	69	67	64	69	64	63	66	74	83
スチール缶	215	207	206	187	181	173	155	151	152	147	152
ビン（無色）	608	592	585	551	535	538	513	496	480	419	447
ビン（茶）	309	306	306	293	276	260	260	266	247	229	242
ビン（その他色）	261	262	267	296	290	301	289	305	282	289	306
蛍光灯	20	19	19	19	14	15	11	11	11	7	10
乾電池	26	24	26	24	18	25	24	23	23	21	23
鉄・鉄屑等・非鉄金属	330	289	270	256	237	414	349				
鉄・鉄屑等・非鉄金属・ 家電品・廃タイヤ・ステンス								209	276	323	335
溶融メタル・溶融スラグ・溶 融飛灰								2,962	3,178	3,144	3,232
紙・布	2,841	2,701	2,508	2,516	2,541	2,581	2,311	2,123	2,077	2,071	2,073
集団回収量	7,248	7,181	6,990	6,725	6,551	6,427	6,095	5,671	5,461	5,064	4,617
合計	13,751	13,379	12,914	12,580	12,312	12,432	11,674	13,925	13,894	13,363	13,119



## 9.最終処分量

川西市から排出される焼却残渣等は、大阪湾広域臨海環境整備センター（通称フェニックス）に運搬、埋立処分されています。平成 29 年度以降、溶融メタル・溶融スラグ・溶融飛灰の資源化を開始したことにより、大きく削減されています。



出典：一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）

最終処分量の推移